

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	い〜まCrea森孝		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 16日		～ 2026年 3月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2026年 3月 30日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のニーズや課題に合わせて指導プログラムを柔軟に設定している。	子どもの特性や状況を分析し、個別指導や言語訓練なども取り入れながら、実態に合わせた指導を心掛けている。 一人一人が楽しく主体的に参加できる取り組み作りを意識している。	日々の記録や指導経過を基に、情報共有を綿密に行いながら、より専門的で統一性のある指導を目指していく。
2	年齢や特性に応じた支援・指導の提供。 個々の良さを引き出す支援の提供。	小学生のクラスでは、生活や学習の基礎となる力の向上を目指し、個別課題や集団遊びを通じて楽しみながら取り組んでいる。中学生のクラスでは、将来の就労や社会生活に向けた力の習得に取り組んでいる。	より効果的な支援・指導を提供していけるように、ICTを活用するなど、更なる改善に努めています。
3	将来を見据えた支援や体験機会の提供。	系列事業所に生活介護や自立訓練、就労継続支援B型があり、連携を取りながら支援を行うことが可能。また、長期休暇には就労継続支援B型での体験活動を行っており、「働く」ことを身近に感じられる機会を提供している。	進路先や移行先となる事業所の情報を広く収集し、保護者からの相談に対して的確に情報提供できるよう準備していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリーな観点での設備面の不足感。	身体の不自由な方向向けの福祉車両がないことや、トイレが狭いことで介助が困難な場合がある。	現在、身体的な介助を必要とする利用者はいないが、今後のニーズに合わせ、充実化を図っていく。
2	保護者への取り組み内容の伝達方法の課題。	送迎時にお渡ししている連絡帳が簡易的なものであるため、引き渡し時にスタッフが口頭で詳細に説明する必要がある。	現状の連絡用紙や口頭でのお伝えだけでなく、連絡手段の充実化を検討していく。
3	ご家族やきょうだい児への支援。	今年度は家族支援やきょうだい児支援を多く実施できたが、保護者同士の交流の場などの機会は設けられていない。	保護者同士の交流の場などの機会について検討していく。